

2018年9月24・25日

寺地ゼミ合宿

担当教員：寺地幹人

本合宿では、常磐炭田・炭鉱を対象とし、フィールドワークを実施した。炭田・炭鉱といった対象は、日本の近代化をそこから理解する素材となると同時に、そこでの労働者のおかれていた状況から現代に通じる労働問題を考えるきっかけにもなりうる。（他の炭田・炭鉱でなく）常磐炭鉱を選んだことには、単に大学近隣地域についての理解を深めるためだけでなく、都市である東京との位置関係や、他の炭産地と比較して産業転換の面で成功事例とされている点もかかわってくる。

身近な地域に対する理解、社会学という学問が主対象とする社会の近代化についての考察、本ゼミ・本ゼミ教員の専門分野の一つである労働についての考察を総合的かつ集中的に行えたという点で、成果をあげることができたと思う。

以下に、参加した学生自身による報告文を記載する。

2018年9月24～25日にかけて福島県いわき湯本温泉郷周辺でゼミ合宿を行った。本合宿では各ゼミ生の論文についての検討を行い、また炭鉱都市として発展した同地域の歴史や当時の人々の暮らしを関係施設にて見学した。炭鉱で働く人々の組織化や、その組織化と連動して変化していった炭鉱関係者の生活様式を知ること、組織という1つの集団が果たす役割を学ぶことができたのではないかなと思う。

本合宿では、常磐炭鉱をめぐる人々の生活を知る目的で2か所の関連施設を巡ったほか、各自の論文のチェックと今後の方針の確認が行われた。

みろく沢炭鉱資料館では、当時の炭鉱付近の写真などの他に実際に炭鉱で仕事されていた方の話から炭鉱消滅のその後について他の家業に移るなどの変化があったことを学んだ。また、いわき市石炭・化石館では、温泉と石炭という2つの財産を巡って利用するタイミングや方法でもめたことや、炭坑内での仕事が暑く危険なものであることへの対処などを知った。この見学を通して、ある事象を見るときにより長いスパンで見ることで情報だけでなく新たな視点も手に入れることができるのではと考えた。

◆画像



